

本庄宿探訪

江戸時代、中山道最大の宿場町として栄え、そして明治時代には、養蚕製糸のまちとして栄えた本庄。

まちの歴史を語る建造物が、いまでも佇んでいます。

宿場町の中心地として栄えたこのあたりは、現在も道沿いや路地に、蔵作りやレンガ造りの倉庫等が多数残されています。

最近ではテレビ等の撮影も行われており、ちよっとした写真スポットになっています。

旧本庄警察署

(歴史民俗資料館)

明治16年(1883)に本庄警察署として建築されたこの建物は、警察署として全般的にも数少ない明治建築物です。永年にわたって改造されましたが、昭和55年(1980)に復元され、市立歴史民俗資料館として一般公開されています。漆喰塗大壁造り、二階ヘランダや列柱、半円形窓などにも明治の文化の薫りが漂います。県指定文化財。



田村本陣の門

寛永年間(1624-1684)に建てられた本庄宿、北本陣は田村本陣と呼ばれていました。現在、門だけが復元移築された当時の様子を伝えています。皇女和宮が江戸に迎えられ、途中宿泊したという記録も残されています。市指定文化財。



諸井家住宅
明治13年(1880)に建てられ、外観は瓦葺き町屋風ですが、居間のアーチ型窓には色ガラスをはめこみ、壁と一体になった漆喰のアーチ型天井には木の葉模様がある円形の漆喰火掛け。また、郵便取り扱所としても利用されました。県指定文化財。



旧本庄郵便局
(現・仲町郵便局)
昭和9年(1934)に建てられ、木造2階建て、外観をタイル張りにした局舎は、当時世界的に流行したアーチ型調の装飾が階段の手すりなどに採用され、独特の風格をたたよわせています。国登録有形文化財。



旧本庄商業銀行の煉瓦造倉庫

繭や生糸を担保として保管しておく倉庫として、明治29年(1896)に建築。繭を保管するので通気をよくするため、左右対称の位置に配置された窓には、網戸と鉄扉を付けています。国登録有形文化財。



金鎖神社

金鎖神社にはたくさんの文化財が残されています。極彩色漆塗りの権現造り社殿は大門とともに市の文化財に指定されており、幣殿には本庄宿の武正南廬、小倉紅など、郷土画家によって奉納されたみこと天井絵が掲げられています。

